

# 荒川区区政改革懇談会

## 第6回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

### 【日時】

11月15日(水) 10:00~12:00

### 【場所】

荒川区役所 3F 議員待遇者控室

### 【次第】

ステップ1：今日のプログラムの説明

ステップ3：次回の討議に向けた話し合い

ステップ2：「福祉・健康・子育てのあるべき姿」についてのフリーディスカッション

ステップ4：その他

### ステップ1 今日のプログラムの説明

コンサルタントより本日の討議の進め方について、福祉・健康・子育てに時間配分をして進めていくか、話し合いの流れの中で3項目にふれていくか決めてから討議に入りたいとの提案があった。

・3分野に時間を分けず、フリーで話し合いたい。

コンサルタントより前回までの話し合われた内容についての説明があった。

### ステップ2 「福祉・健康・子育てのあるべき姿」についてのフリーディスカッション

- ・障害者にとっては、リハビリテーションが続けていけない状況がある。障害者の健康については行政の施策として行ってもらわないと個人ではできない。リハビリテーションは毎日行わないと意味がないので、継続できるシステムが必要である。1年に1度のイベントではだめである。
- ・子どもは健やかに育ち、誰もが健康に生活できるために何が足りないのかをはっきりさせる。出産なども個人の問題ではなく、社会で支えることが必要である。
- ・妊娠出産を個人の問題ではなく、社会の問題として捉えるべき時期にきていると思う。
- ・妊娠中の検診は都で決められたものは無料である。
- ・妊娠中の検診の費用や出産費用はすべて行政で給付するくらいの施策を考えないとだめである。
- ・少子化の問題にもつながるが、出産費用が出せないから子どもを産めないという人もいる。また、教育費がかかるというのが現状である。公立学校のレベルアップが必要である。子どもを持つことでの経済的負担を軽減することが大切である。
- ・出産後の職場復帰がむずかしいという現状がある。復帰できても、その後の待遇等にも不備があるように思う。

- ・母親が職場復帰するには、子どもを預かる場の確保が必要である。

(提案)資料として前回までのまとめを配布してあるので、参考にしてほしい。

子育てをしていて困ったことがあったか。

- ・道路やスーパーなどがまだまだバリアフリーになっていない。
- ・双子の子育ては、バス・電車の乗降、買い物不便であった。
- ・道路や施設をつくる時に子育て中の人や障害者が参加することが大切。
- ・年寄りが同居していると保育園には預けられない。
- ・核家族で夫婦共働きというのが条件。小さな子どもと高齢者の施設を分けなくて交流をもちつつ施設利用を考えた方がよい。託児のヘルパーが高齢で3歳男児だと無理ということがあった。
- ・もっと身近に障害者の集まれる障害者会館のような場所がほしい。
- ・区内の大学生を子どもの預かりや障害者のヘルパーとして活用できないかと思う。
- ・若い人の実生活の中で子どもや障害者とふれあう機会がなくなっている。
- ・事故が起きたら困るという考えがまず先に立ち、ボール投げは金網の中でしかできないような現状である。もう少し、何かが起きたときに考えればよいという発想が必要である。
- ・しつけは家庭でということの意識が今では薄れてきてしまっている。
- ・わがままを通すことは個性ではない。
- ・エスカレータを駆け上がる人が多く、世の中がせわしくなっている。
- ・食品も簡単に食べられる添加物の入った物を食べたり、電子レンジで温めた物を食べたりすることは身体に悪い影響が出る場合もあるのではないか。
- ・水やりなどにやさしい言葉をかけつづけると、おいしくなったり新鮮なままでいたりするので、子どもにもほめる言葉を多くかければよい子になるのではないか。
- ・ほんとうのほめ方をしらないおとながいる。
- ・しかられたことがない子どもが多い。
- ・地域での交流がもっとできれば、変わるかもしれない。ヘルパーの人柄を知ってから子どもを預けたい。
- ・子どもころからみんなで力を合わせるということを経験していれば、自分の価値も他人を大切にす気持ちも芽生えると思う。
- ・荒川区では「おせっかいをしよう。おじいさん、おばあさん。」という標語で呼びかけている。
- ・小さい頃にけんかをさせた方がよい。
- ・ゲーム感覚で実際の生活をしている子どもがいる。
- ・ゲームをやり続けると依存症になる。前頭葉が発達していない子どもが多くなってしまふ。
- ・ゲーム、PC、携帯等により人と人との関わりがなくなってきた。荒川区では読書を勧めている。

- ・要求がどんどん進んで、エスカレートしてしまう。ものごとをじっくり考えないといけない。子どもにも情報が多すぎて、それを親が助言もできないのが現状である。
- ・畏敬の念がなくなった。「尊くて、恐れ敬う」という気持ちを知らないおとなも子どもも多い。
- ・体育系は少しその気持ちが残っている。
- ・謙虚さのないおとなも子どもも多い。正義感や道徳心もない。
- ・心を育てなければならない。
- ・心と身体の両方を健全にしなければだめだと思う。
- ・家庭においては父親の権威を復活させる。
- ・男女平等をはき違えている。男と女には別々の特性や役割があるのだから、それを生かしていけばいい。
- ・いじめの問題がおきても、責任は学校、自分の子どもには問題がないという親がいる。

### ステップ3 次回の討議に向けた話し合い

コンサルタントから、次回以降も特定のテーマにしぼらずに「福祉・健康・子育て」について話し合っていくという説明があった。

### ステップ4 その他

次回日程について

今回は、12月6日（水）10：00～

以上